

## 北海道・区画整理で活性化図る旭川市

～駅近くに自然生かしたまち～

日本不動産研究所 北海道支社  
不動産鑑定士 川尻 雅裕

### 1. 道内第二の都市

北海道旭川市は、道北地方に位置し、特急を利用すればJR「札幌」駅から約80分でアクセス可能です。南方には国立公園に指定されている大雪山系があり、市内からその景観を眺めることができます。人口は約35万人で、道内では札幌市に次ぐ人口規模を誇ります。

### 2. 買物公園

近年では大型小売店舗の郊外ロードサイドへの進出により、中心市街地から客足は遠退き、既存商店街の衰退が問題視されています。日本で最初の歩行者天国として有名な「買物公園」においても、以前ほどの賑わいは見られなくなりました。



「我が国初の歩行者天国として有名な『買物公園』」

### 3. 北彩都あさひかわ

そこで、旭川市は平成23(11)年に中心市街地の賑わいを創出するため「中心市街地活性化基本計画」を設定し、政策を進めています。

その一つに、旭川市では JR「旭川」駅周辺にあった旧国鉄跡地の有効活用を目的に「北彩都あさひかわ」と称した土地区画整理事業を進めています。区域面積は約 86ha であり、このうち 20 区画の保留地を処分する予定で、規模は 3~4 千㎡が中心です。建物用途は地区計画に応じて住居系と商業系に大きく分けられます。



「土地区画整理事業でまちづくりが進む『北彩都あさひかわ』の整備概要図(旭川市提供)」

この他に JR「旭川」駅では、平成 23(’11)年に北海道産の木材を多用した駅舎を完成させており、自然豊かな旭川らしい新たな玄関口として市民及び観光客で賑わうことが期待されています。また、旭川駅舎や「北彩都あさひかわ」の背後に流れる忠別川の河川敷で「あさひかわ北彩都ガーデン」と称した公園整備事業を実施しており、これが完成すれば、駅周辺一帯が緑に包まれる市民の憩いの場となるでしょう。



「新しく完成した旭川駅舎」

さらに、旭川市では保留地のうち景観等が特に素晴らしい区画に、旭川の「シンボル施設」を立地する計画を進めています。現在は、民間企業者の資力の活用を前提に、有識者検討会議を設けその有効活用の具体策について議論を続けています。

民間事業者に「北彩都あさひかわ」に対する感触を聞くと、「将来的に旭川市の中核となることは間違いない」「旭川駅に近く、市街地の中心部であることに魅力を感じる」といった声がある一方で、「行政や市民及び地元企業が積極的に盛り上げていくことが必要だ」といった声もありました。

このように、「北彩都あさひかわ」では自然環境を活かしつつ中心市街地に賑わいを創出することを目標に事業を進めています。これら旭川市民の願いを形にするためには、やはり市民や地元企業が協力し、行政と一体となって「北彩都あさひかわ」を積極的に情報発信することが必要ではないでしょうか。是非とも今後の旭川市にご注目ください。なお、土地区画整理事業「北彩都あさひかわ」の詳しい情報については旭川市都市建築部駅周辺開発課（電話：0166-25-6212）までお問い合わせください。